

社外取締役の戸惑い



シンクタンク・ソフィアバンク 代表
藤 沢 久 美 CMA

「社外取締役に何を期待されていますか」。最近、経営者の方々と懇談するたびに、同じ問いを投げかけている。多くの経営者の方が、戸惑いながら答えてくださる。中には、まだ社外取締役の必要性を実感していないが、社会の流れだから仕方ないのだと本音を漏らされる方もいる。

東京証券取引所が、社外取締役に2名以上選任するようという上場規則案をまとめ、日本政府は女性の管理職数の目標設定を義務付ける女性活躍推進法案を閣議決定した。今後、社外取締役に選任する企業は間違いなく増加するだろうし、その多くに女性を選任する企業も増えるだろう。しかし、この流れの中で、悩める経営者と同様に、当事者である社外取締役もまた悩んでいるに違いない。筆者も、その悩める社外取締役の一人として、このエッセーを書いてみたい。

社外取締役の情報管理とIT化

まず、社外取締役にになって戸惑ったのは、資料の管理だった。取締役会で取り扱われる事項は、重要事項ばかり。しかし、多くが紙ベースの資料で共有されている。社外取締役がいないうちは、それらの紙の資料は、社内を移動するだけだったが、社外取締役は、その資料を社外に持ち出すことになる。社外取締役本人にとっても、それは大きなリスクであり、移動中の紛失など、取締役会資料の漏えいのリスクが大きい。こ